

「中国 JET 事業実施 20 周年記念 JET セミナー」の開催について

北京事務所

JET プログラムへ中国からの参加が始まって、今年でちょうど 20 年経ちました。現在、1,000 名を超える JET プログラム経験者が中国各地で活躍しています。当事務所では、CLAIR と JET プログラム経験者、また経験者同士の連携を深めるきっかけとするため、2010 年度までに、中国各地で 25 回にわたり、意見交換会を実施してきました。また昨年度からは、規模を拡大し JET セミナーとして開催しています。

今年度は、2012 年 6 月 15 日（金）午後、国際交流基金北京日本文化センターにおいて、北京市・華北地域をはじめ 17 の省・直轄市・自治区から JET 経験者や関係者 70 名以上の参加のもと、セミナーを開催しました。当日、当協会からは三枝健二理事が出席し、来賓としては外交部外事管理司陳儀副司長、北京市外事弁公室田雁副主任、在中国日本国大使館臼井将人参事官に出席いただきました。

はじめに JET 経験者の成都市人民政府外事弁公室張雅琴主任補佐、江西省人民政府外事弁公室曾広福主任科員の 2 名に、日本での経験やそれを踏まえての自分の思いについて、講演をいただきました。その後、社会福祉法人新生会 HALC 自然学校西田真哉塾長をファシリテーターにお迎えして、「中日の地域間交流・相互理解で大事なものは何か～JET の視点から～」をテーマにワークショップを行いました。最初に、西田氏から導入として講演があり、その後、参加者でグループワークを行いました。はじめは慣れないワークショップに緊張気味の皆さんでしたが、時間が経つにつれて、各グループで活発な意見交換が行われるようになりました。

JET 経験者にお話いただいた内容や、グループワークでの参加者からの意見は、今後、「日中の地域間交流と相互理解」を進め、また広げていくうえで、大いに参考になりました。また、グループワークを通じて、JET 経験者同士の交流をさらに深めることができました。

セミナーの後は交流会を開催しました。会場では、JET の皆さんが活躍している写真の展示も行い、写真を見ながら参加者同士の会話が弾みました。また、途中日本に関するクイズ大会なども実施し、和やかな雰囲気の中で終了しました。



《ワークショップの様子》



また、このセミナーの参加者である宋璐さん、江昕如さんから感想を寄稿いただきましたので、ご紹介します。

JET プログラム参加者の心の支え ——中国 JET プログラム実施 20 周年記念セミナーの感想 (2007 高知県 CIR、安徽省外事弁公室 宋璐)

2008 年 4 月に、高知県での CIR 勤務を終えて職場に復帰してから、はやくも 4 年が経ちました。JET プログラム経験者の皆さんと同じように、JET として日本で過ごした一年という短い時間は、いまや私の人生のかけがえのない宝物になっています。JET プログラムは中国ではあまり知られていません。しかし、このプログラムの背後には自治体国際化協会 (CLAIR) という支援組織の力強いバックアップがあり、とりわけ CLAIR 北京事務所の皆さんのおかげで、中国における JET プログラムの知名度はだんだん高くなり、影響力も広まりつつあります。

JET プログラム参加者は初日集合の時、みんな私と同じように不安を抱きながら、北京に来たと思います。そのとき CLAIR 北京事務所の皆さんは、温かい笑顔で迎えていただき、私たちの不安や戸惑いをほぐそうと熱心に説明され、前向きな姿勢で日本での仕事と生活に適應するようにと励ましてくれました。北京でのオリエンテーション及び壮行会の際、困ったことがあれば CLAIR に相談してくださいと、また、渡日してからどんな困難にあおうと一緒に悩んで支える CLAIR という組織がいます、と教えてくれました。

2012 年 6 月 15 日、中国における JET プログラム実施 20 周年記念セミナーに参加して、私は再び北京で CLAIR の皆さんや JET 経験者の皆さんに会うことができました。久しぶりに友人たちに会ったような気分で、思う存分楽しめた一日だったように思います。今回のセミナーを準備するために、CLAIR 北京事務所の皆さんがどのように心を砕いたのかは知るすべもありませんが、充実したセミナー内容や用意周到なイベント運営から、皆さんの温かい気持ちがひしひしと伝わってきました。特に交流会の会場に設置された



《宋璐》

「JET 写真展」は非常に印象深かったです。JET 経験者は帰国するとそれぞれ違う職場に戻り、仕事の内容もまちまちですので、お互いにだんだんと連絡を取らなくなりがちです。「JET 写真展」のパネル展示を通して、JET 経験者の皆さんの帰国後の活躍ぶりを知ることができました。それと同時に、私たちが JET 勤務を終えた後も、CLAIR の皆さんは私たちの成長を見守り、応援し続けてくださっていることがわかりました。

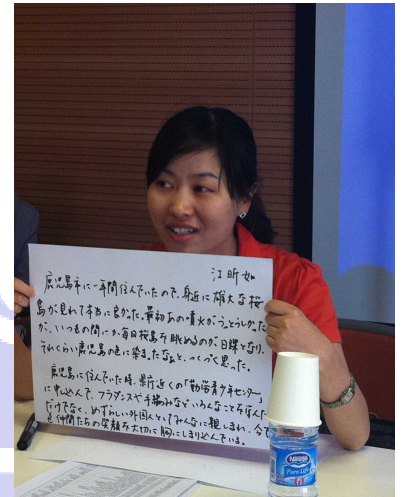
私はここ数年、安徽省における JET 選抜と派遣関連の業務に関わっています。興奮と不安を隠せない新規参加者と対面していると、かつての自分と CLAIR 北京事務所の皆さんのこと

が記憶に蘇ります。当初、CLAIR の皆さんから頂いた励ましを彼らに伝えるかのように、私はいつも確信を持って次のメッセージを彼らに伝えるようにしています。「JET プログラムへようこそ。不安や戸惑いを捨てましょう。一生でかけがえのない時間が皆さんを待っているのですよ」と。

JET 青年という名

(2009 鹿児島県 CIR、江蘇省外事弁公室 江昕如)

北京で開かれる JET 派遣 20 周年記念シンポジウム出席を決めるのに、さほど時間がかかりませんでした。それは、「JET」という言葉が私にとって特別な意味を持つからです。美しい鹿児島から帰国して丸 2 年間経った今でも、CIR として過ごしたあの 1 年間の名残りは日常生活に満ち溢れています。私は心の底から鹿児島を第二の故郷と思い、鹿児島に関わるすべてが懐かしく思えます。鹿児島の魅力、そして九州の魅力を機会あるたびに PR し、鹿児島をはじめ、九州地方の観光の振興を心から応援しています。鹿児島での 1 年間で振り返ってみますと、まさしく「思い出ぼろぼろ」。このすべてに巡り会えたのは、JET プログラムのおかげです。その JET 関連のイベントに参加するのは私にとって当然のことであり、今回の記念セミナーに出席することで少しでも恩返しをしたいと思っていました。



《江昕如》

しかし、従来の座談会形式だろうと思い込んでいたセミナーが、図らずもみんなが参加できる楽しいワークショップ形式だったのはとても嬉しく、盛り上がりました！「日本に在る間に一番印象に残ったこと」、「改善すべきと思うところ」、「今後 JET プログラムをより良くするためのアドバイス」など、ファシリテーターの西田真哉先生は次々と質問を投げつけました。真白な模造紙に答えを書きながら、JET 勤務中の思い出がまるで映画のシーンのように、一コマ、また一コマと目の前に浮かんできました。これは決して私ひとりの感想ではないはずです。グループディスカッションの時、参加者は時折テーマから脱線し、それぞれの思い出話に夢中になっていました。第 1 班の記録係を務めた私は不本意ながらも、本題に戻るようと、思い出話に花を咲かせるメンバーたちの話を何回も「邪魔」せざるを得ませんでした。

今回の 20 周年記念セミナーに出席した参加者の中に JET の同期はあまりいませんでしたが、それでも新しい友人をすぐに作ることができました。セミナーでは「どこに勤務していたの？」という質問が合言葉でした。質問の後、初対面の人でもすぐに打ち解けて会話し、日本に在る間の面白かったことや印象深かったことなど、話が尽きませんでした。料理教室で色々な料理を教えたり、学校訪問ではこんなスピーチをしたり、地元住民の人気者になっていつもお米や野菜を贈ってもらっていたので、食べきれないほどだったり、など…。話題は、JET プ

プログラム経験者の私たちしか共有できないことばかりでした。JET 青年という名を持つ私たちは、日本でそれぞれ違う経験をし、それぞれ異なる喜怒哀楽を感じ、それぞれが独自の道を歩みました。それでも、JET プログラムは私たちにとって、人生にたった一つのかげがえのない経験であったことに変わりはありません。

日本語には「感謝してやまない」という表現がありますよね。この言葉はまさしく私の JET プログラムに対する気持ちを表しています。予想を遥かに超えた素晴らしい経験をありがとう。暖かい人々と思い出に巡り合わせていただきありがとう。「JET 青年」という名を、これからも誇りに思って人生を歩んで生きたいと思います。

(水越所長補佐 京都府派遣)

